

「ピカソのもり」の活動日記

2024年10月13日～2025年1月5日



一般社団法人
ピカソプロジェクト

2025年2月作成: 奥村みずほ・井上実奈美



2024年10月～2025年1月までの期間、兵庫県猪名川町北部にて、親子向け自然体験イベント「ピカソのもりにおいでよ！」を開催しました。
内容は、もりの中で様々な角度から自然と対話する全10回のプログラムとして実施しました。

いざというときに生き残る「サバイバル技術」として、ブッシュクラフトのプロと一緒にひみつ基地をつくったり、里山環境保全のプロと一緒に活動しながら、普段使わない道具をつかって楽しんだり、森や里の資源を活用しておもいっきりにアート活動を行いました。山の大切さを学んだり、自然の中に生活を感じたり、遊びながら親子で環境を学べるESD(持続可能な開発のための教育)という位置づけで実施し、1歳のお子様から77歳の地域の方までご参加くださいました。

今期の活動は、公益社団法人国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」の活動の一環として助成金をお預かりして実施しました。
参加者には、イベントを通して緑を守る「緑の募金」にもつながることを感じていただきました。

【助成金費用の用途】

- ・ 講師費用
- ・ 駐車場等借損費
- ・ 広報活動費
- ・ 土中改善に使用する道具
- ・ イベント当日のスタッフ交通費

【自費負担】

- ・ スタッフ人件費
- ・ スタッフの待ち合わせ場所までの交通費
- ・ 道具の追加購入費
- ・ 準備費用一式
- ・ 事務作業費一式
- ・ 食費一式

2024年10月13日(日)イベント初開催！



先生から森の現状を学ぶ。



木の根を直接踏むと痛めてしまうので、石を施す。



全身を使って、土を掘っていく。



崩れを防ぐための階段が完成！

イベントタイトル:「生きている山をつくるために①～水の通り道をつくろう～(特別講師:大庭 朗子)」

イベント内容:子どもと一緒に土中環境改善。水がゆるやかに流れる道づくり。

参加者:講師一名・スタッフ三名・二家族(大人三名・子ども三名)

土中環境改善に詳しく、各地で改善を実践してきた大庭朗子先生をお招きしました。

森への道中で、土中改善に使用する落ち葉を拾います。木の真下に落ちているものはその木の栄養分になるので拾わず、コンクリートの道の上に落ちているものを拾いました。

森の中では、むき出しになっている木の根を発見しました。このままにしておくと、直接踏まれて傷んでしまいます。石を打ち、土圧が分散されるようにしました。

砂地の斜面は、カラカラに乾いて崩れやすくなっていました。階段のように段を切って、崩れにくくします。

子どもたちも土を掘り、大人が杭を打ち、横木を置き、落ち葉や石を詰めて階段をつくりました。崩れにくくなるとともに、石や葉っぱによって土も変わっていき、下草が生えてくるようになります。

今後の変化が楽しみです。

子どもたちは先生の発言をしっかり聞いていて、それを言葉に発しながら体動かして実践していました。

最初は山という未知の領域に不安顔だった子も、トンカチで杭を打ち、川にも進んで入り、勇ましくなっていました。もりの中で変化する子どもの姿に喜びを感じます。

今回は、小さな子どもたちが大人に混ざって土中改善をしました。

小さな体でもできることがたくさんあります。ぜひ、今日のことを覚えていてほしいです。

2024年10月19日(土) シェルターづくり



先生から「生き残るため」のレクチャーを受けました。
じゃんけんやクイズも交えて楽しく。



ロープワークを学びます。



家族三人で力を合わせてシェルターをつくる。



オリジナルの形のシェルターが完成！

イベントタイトル: 「はじめてのブッシュクラフト①

どんな環境でも生き残るために(特別講師: アンフィニッシュドクラフト 重田弘美・西岡輝生)

イベント内容: 生き残るためのレクチャー・シェルターづくり

参加者: 講師二名・スタッフ三名・一家族(大人一名・子ども二名)

この日はあいにくの大雨でした。ピカソのもり代表みずほさんの伯父のお家の軒先をお借りして、まずはお勉強タイム。「人間が生きていくのに必要なもの」は何かをまず考えました。空気や食べもの、水、などなど。空気・シェルター(体温)・水・火・食料の5つが最低限必要なことが分かりました。その中でも2番目に大切な「シェルター(体温)」をつくります。

ロープ・木や竹・シートがあれば、簡単に作ることができます。まずはロープワークを教えてもらい、基本的な結び方を覚えました。子どももできる簡単な結び方で、参加した子どもも結ぶことができていました。

雨もやんできたところで、駐車場に移動。シェルターづくりを実践しました。「雨が降る前にいそげ〜！」リアルな状況で実践できてよかったです。

最初は乗り気でなかった男の子も、突然「あ！作りたいの思いついた！」と俊敏な動きに！“つくりたい”を形にするために、自分から大人たちに協力を願い、オリジナルのシェルターを作っていました。

道具がない時は、今回作ったものが完璧にできないかもしれませんが、今日の実践の欠片ひとつひとつが、子どもたちの周りで本当に災害が起こった時に、自分自身や周りの人を守るために役立ててくれたらうれしいと思います。

2024年10月20日(日) 5家族21名！の基地づくり



まずはもりを探検！

ロープワークをやってみます。



オリジナルの各家族の基地が完成！

「コースターつくりたい！」丸太を切ってみる。
のこぎりで時間をかけて。なかなか手ごわいぞ！

イベントタイトル:「はじめてのブッシュクラフト②自分の手と頭でやってみよう！」

イベント内容:ひみつ基地作り

参加者:スタッフ三名・五家族(大人十名・子ども十一名)

この日は総勢21名の5家族が参加！保育園の先生やそのお友達や、素敵な人達が沢山来てくださいました！とても嬉しそう。大人も子どもも楽しみにしていた、ひみつ基地づくり！！

まずは材料探し。森の中で、良い長さの枝や杭になりそうなモノを探します。実はこういう作業も、森の整理につながる。続いて自分にとって居場所の良い場所を探して、基地にしていきました。ちょっとしたロープワークや手作りの杭を使ってシートを立てる！ちっちゃい子も、やってみる！午前中いっぱいがんばって…全チームシェルターが完成！こういうシェルターだけでも、災害時自分の体温を守ってくれ、小さなプライベート空間が作れる。安心出来る場所を確保することは、命を守る第一歩になります！
葉っぱを集めだしたチームがいるなどと思ったら、装飾したり、日が気持ち良いから、シェルターに入らなかったり、支柱が上手くないかなら…と、丈夫な木を利用したりする人もいたり。工夫を凝らし、それぞれが楽しんで作っていました。

「あれ！どこから泣き声がする！」と飛んでいくと…トンカチがないから、木で木を打とうとした少女が自分の手を打ってしまった…！でもそんなとき「なんでそんなことしちゃったの？」ではなくて「工夫したんだな！カッコいいな！でも、手は気を付けないとあかん！カッコいいぞ！」と思います。痛いし、びっくりしたよね。。パパとおてて洗って、ちょっと休憩して、また笑顔になってホッと安心。

イザってときは、何でも使えるものを使う！そういうアイデアも大切。【カッコよかった私。ひらめける私。】って思い出になりますように。

2024年11月8日(金) 竹取り



竹を伐採。



タイヤのねじが行方不明になるトラブル発生。



鉋で削る、杭の作り方レクチャー。



落ち葉プール用の竹を集めました。

準備日:地域の方に地域でのやり方を学ぶため実施
内容:11/10イベント用の竹を準備。
参加者:スタッフ二名・大人二名

駐車場近くにある孟宗竹の竹林に入り、竹を伐採しました。
伐採した竹の枝を落としてを森へ運びます。

地域の方がご協力くださって、竹の切り方や杭の作り方をレクチャーしてくださいました！
鉋でえんぴつのように削る方法は、簡単にはできませんが、練習すればいろんなことに役立ちそうです。

途中運搬車のタイヤが外れてしまうというトラブルが発生…なんとか準備を終えました。この日は地域の方が助け
てくださいましたが、自分たちでこのような作業もできるようにならなくては…！
協力くださる方をもっと集めることも大切ですし、そこにあるモノで、自分たちだけでも出来ることをたくさん増や
していきたいです。

2024年11月10日(日) 落ち葉のプールづくり



森への道中、落ち葉を集める



竹割に挑戦!



力を合わせて組み立てる



落ち葉プール、完成!

イベントタイトル:「生きている山をつくるために②～落ち葉のプールを造ろう～(特別講師:大庭 朗子)」

イベント内容:落ち葉のプールづくり。

参加者:講師一名・スタッフ二名・三家族(大人四名・子ども六名)

落ち葉のプールは、フカフカ土を作るための造作です。土に触れ、有機物の分解した後の土の色・ふかふか具合の違いを知りました。

硬い土にも水が浸透しやすくなる造作を行い、落ち葉プールの土台を作ります。作業の中で樹の細かな根は切ったり痛めないようにすることも学びます。

二人ペアになって、竹の端と端を息を合わせ、それぞれの杭に紐で結びます。いつか自然に戻る日のために、紐も自然素材です。道すがら集めた落ち葉を中に入れて、暗くなる前になんとか完成!

竹を割る作業では、一人の男の子が竹の割れる大きな音が怖くて最初作業できなかつたのですが、最後は勇気を出して切ることができました初めは車の中でゲームに夢中だった男の子も、森の中ではプールづくりに夢中になって真剣に取り組んでいました。。葛藤しながらもチャレンジする姿がたのしいです。子どもの「やってみよう!」や夢中の時間を作れた一日になりました。

有機物が分解された粒上の土(断粒構造といいます)は、隙間に空気や水が行き来できますが、泥は粒子が細かいので泥パックのようになり、空気や水の行き来が出来なくなって、山が息苦しくなるのだそうです。

山が上手に水分を吸収、蒸散させるための断粒構造のフカフカの土がたくさんできるように、今後“ピカソのもり”に来るときは、落ち葉(針葉樹林の葉や銀杏、竹、笹の葉は土に戻りにくいので避けます)を持ってきて、落ち葉ステーションに入れてくださいね!

2024年11月23日(土) 高知の先生に土中環境を学ぶ



歩きながら森の現状を先生から学ぶ。
カラカラの斜面。



崖になっているところに枝を置いて、崩れないように施す。



石の階段づくり。



階段づくりで出てきた土を集め、
小さな森のマウンドを作る。

イベントタイトル:「里山環境保全ワークショップ① 里山を歩き、里山を知ろう(特別講師:のりまつ造園 乗松正博)」
イベント内容:土中環境改善・石の階段作り・マウンド作り
参加者:講師二名・スタッフ四名・大人五名

高知県からはるばる来てくださった特別講師は乗松正博さん。全国で土中改善や自然環境を守りながら造園や建設などを行ったりワークショップを開催されていらっしゃるカリスマ講師です。
今日は難易度を高く設定したこともあり、子どもの参加はなし。近隣でお勤めの高校の先生がボランティアで来てくださったり、熱心な大人が参加して土中環境を実践を通して学ぶ日となりました。

森の道中、道の端に崩れそうな箇所がありました。そういうところには、等高線に沿って枝を置きます。坂の上から水と土が勢いよく流れるのを緩和してくれます。乾いた斜面に生えている木と木を渡すように枝を置いたり、木の生え際に石を打ち込み、水の浸透を良くしたり細かな造作をいくつも教えてくれました。こういう造作を、昔の人は森を歩きながら自然に行っていたそうです。

森の中をぐるっと回り、今後、環境改善が必要な場所を見立てていただきました。
入口に近いある場所は、ゴミや伐採痕、植生物の一様化が進んで土が硬くて崩れていて、一番に手を入れないといけないそうです。ピカソのモリのメイン講師である大庭さんと、年末にここをやろうね、と決めました！

今日から二日かけて、石の階段、小さな森のマウンドづくりを行います。
自分たちだけでもこんな作業ができるように精進します！

2024年11月24日(日) ピカソのもりの奥地へ探検



森の奥まで進んでみる。



石の階段作りのつづき。

二日間で、ついに石の階段完成！

イベントタイトル:「里山環境保全ワークショップ②里山をどう守っていく?(特別講師:のりまつ造園 乗松正博)」

イベント内容:土中環境改善・石の階段作り・マウンド作り

参加者:講師二名・スタッフ三名・大人二名

乗松さんによる改善活動の二日目です。この日は、午前中に森の奥まで進んでいきました。川沿いに歩いていくと、とっても綺麗な水が幻想的に流れている場所もあって、散策コースになれば素敵だなと思えます。でも鉄の扉や昔の家財道具、林業の跡の鉄のワイヤーロープなど…今の山にとっては環境を悪化させるゴミになってしまうものもたくさんありました。昔(30年くらい前まで)は、たくさんのマツタケが採れたという山。松くい虫や温暖化のせいにされがちだけど、山の管理が行き届かなくなったことが実は一番大きな要因だそうです。炭焼きの窯跡や、石積み、自然を守る造作など、ご先祖様が施した貴重な歴史の痕跡もたくさん見つけました。良いも悪いも全部歴史。その歴史を今この時代に生きている私たちがどう紡いでいくのか、希望をもって未来につなげていきたいと強く感じました。そうそう。可愛いタヌキの巣も見つけました！

午後は前日の続きの作業を、手分けしてわいわいに行いました。子ども達がよく歩く場所は、土がくずれて川に流れていきやすくなっています。そんな場所は、段々にして石の階段を作りました。そこで出た土を一か所に集め、もみ殻燻炭や稲わらを混ぜながら、マウンドという場所をつくります。ここに山で拾った種などを植えてみました。

近い将来小さな森になることを夢見て…。

2024年12月8日(日) しめ縄づくり



森を探検。触ったり拾ったり。



縄をなう。ちょっぴり難しい。



突然始まる橋づくり。



できた しめ縄を持ってパシャリ！

イベントタイトル:「しめ縄をつくろう」

イベント内容:しめ縄作り

参加者:スタッフ四名・二家族(大人四名・子ども七名)

はじめにもりを歩き回って探索！しめ縄づくりに使う素材探しをしました。お気に入りの葉っぱや木の実を探しながら、苔がたくさんのあるところで、もふもふ癒されたり、猪のぬた場(お風呂場)で足跡を発見したり、鹿のフンを見つけたり、弱った蜂さんやバッタの赤ちゃんを見つけたり…。子どもたちも大人も、初めて触れるもの、見るものがたくさんになりました。

しめ縄をなう方法は、ピカソのもりの代表の得意技！

水でぬらしながら行うので、川の水を汲んできて…触るとひんやり冷たい！ググっとひねる力も必要。なかなか難しい作業でしたが、親子で頑張ります。少し難しいからこそ、やりがいがあります。紙垂(しで)も自分で切って、お気に入りの木の実やだいたいをつけて完成！

売っているしめ縄もキレイで素敵ですが、自分で造ったしめ縄はなんとも言えない美しさ…。

創作が終わった子から、川遊び&木登りがスタート！森の中だと、決められた遊びではなく、「あるもので自分たちであそびを生み出す」工夫がはじまります。

先日の乗松さんのワークショップで造った石積みのお話を子どもたちに伝えると、こっちにも「階段作る！！」と勢いよく階段作りが始まったり、せせらぎにいつの間にか橋がかかったりしていました。

雨が降ってきたので、残念ながら完成には至りませんでした。が、「やりたい！」の気持ちがたくさん生まれる一日になりました。

2024年12月28日(土)マウンドづくり①



森に落ちている沢山のごみ。重機のタイヤ。



流れてしまっている斜面。



改善で出た土を集めて、藁やもみ殻燻炭を混ぜ、フカフカの土の場(マウンド)をつくる



マウンド作り。

イベントタイトル:「生きている山をつくるために③～かぜの通り道をつくろう～(特別講師:大庭 朗子)」

イベント内容:土中環境改善・マウンドづくり。

参加者:講師一名・スタッフ三名

山では、改善すべきところとそのまま守るところを見分ける必要があって、改善すべきポイントを見つけて、作業の段取りをつけることを「見立て」と言います。

今回は、いつもの作業場所と少し違う場所に行きました。

山が崩れて谷になってしまったところを細かく見ていくと、40年くらい前に捨てられた(掘り出した新聞から推測)とみられるゴミがあちこちに。。。小さなビニール袋一つでも森の環境は悪化します。

昔の人は、そんなゴミもいつか土にかえると思っていたのかもしれませんが、気付いた私たちが、未来のために片付ける番です。

ここを改善しよう！と決めて、作業の段取りに入ります。

この日は寒すぎてお客様の参加も無かった(キャンセルになりました)ので、スタッフと講師とで、明日の参加者がワクワク取り組めるための準備もしました！

荒れてしまった土地を取り返すには、たくさんの年月がかかります。

その第一歩を踏み出すというのは、とても気持ちの良いものです！

この取り組みから、来年少しでも木の芽が生えると良いな。希望をこめて、明日につなぎます。

2024年12月29日(日)マウンドづくり②



石積みの時に出た土を運ぶ。



横木に使う重たい木を皆で運ぶ。



水を浸透させる稲。ちょうどいい長さに切る。



大人三人で石積み。崩れを防ぎ、石が土に水を浸透させてくれる。

イベントタイトル:「生きている山をつくるために④～しがらの道をつくろう～(特別講師:大庭 朗子)」

イベント内容:土中環境改善・石積み・階段作り・マウンド作り。

参加者:講師一名・スタッフ三名・大人四名・一家族(大人一名・子ども三名)

石積みとマウンド作り、その近くの崩れかけていた坂に階段作りを中心に行いました。他にも、杉のもり付近の木の根っこを守るための石置き、歩くための横道作りをしました。

子どもたちは、石積み用の重たい石を運んだり、階段づくりで出た土をマウンドに運んだり、気になるところを行ったり来たりしていました。初参加の大人たちは、石積みに夢中になってとり組んでくれました。

途中で石探しをしていた子どもが、山の斜面を滑り台みたいにして遊び出し、そこは落ち葉が全部なくなり、カサカサの砂が剥き出しの状態になってしまいました。それを見て、講師の大庭さんが山の斜面を歩く時の道の作り方を教えてくれました。下草が生えておらず、斜面が剥き出しの状態だと、余計に地面は乾き、崩れやすく、水も勢いよく流れやすくなり、川には土砂が堆積してしまい、泥詰まりを起こします。泥が詰まると、水が湧き出しにくくなる・空気が滞る・水が減り、魚の住処が無くなるということが起こります。森に関わり、動いてみることで、様々な生き物の暮らしや人の暮らし、全体のつながりが見えてきます。

もりに来た時に「さむいよー！帰るー！」と泣いていた子が、最後には「次いつくる？」とお母さんやお父さんに聞いていて、嬉しく思いました。

2025年1月5日(日) 神様&看板をつくろう！



重たい かけや を使って杭を打ってみる。



ピカソのもりの名所ができた！



ピカソのもりの看板をつくる。



水が染み出る場所。ここに神様を置く。

イベントタイトル:「みんなで森の神様をつくろう！奉ろう！」
イベント内容:環境改善の補修・森を守る神様づくり・看板づくり
参加者:スタッフ四名・大人四名・一家族(大人二名・子ども五名)

この日は一連のイベントの最終回でした。
まずは今まで行ってきた土中環境改善の一部を見て、造作が甘いところを修正したりしながら山を歩き回ります。
杭が緩くなっているところを かけや を使って打ったり、落ち葉や石を詰めなおしたりします。かけやは大人でも重たく、腕がパンパンになってしまいましたが、子どもたちも「やりたい！」とチャレンジしていました。

各スポットでは、こんな作業をしたんだよ、と伝え、子ども達と一緒に場所の名前を付けていきました。「あなあき橋」や「ぐらぐら階段」「だんだん各スポットの名前を決め、そこに設置する看板づくりがスタート。大きな看板の、どこに文字を配置するか考えながら、子どもたちは真剣に取り組んでいました。

最後に、水が染み出ているピカソのもりの入り口にしつらえる、森を見守る神様を作りました。石に、それぞれが想像する神様を描きました。そっと置いて、今回のイベントは終了です。ここから、豊かな土中が作られていきますように。

今回の助成活動はここまでとなりますが、今後も小さなイベントや取り組みを、町や自治会、まちづくり協議会の皆様と相談しながら進めていきたいと思っています。

【さいごに】

今回の活動では、土中環境改善のプロフェッショナルにご指導をいただき、むかしながらの工法で山の環境を改善するワークショップを行いました。

事前準備として、杭や大き目の石、藁、大量の落ち葉などが必要であることがわかりました。

そのため、後半の活動は、事前に準備物を集める日をつくり、地域の方のお力を借りたり、スタッフ一同で資材集めにも奔走しました。

資材集めや準備は以下の日程で行いました。

11月8日 竹の伐採

11月22日 焼杭の作成、近隣竹林の整備、竹炭の作成など

12月16日 活動地のビニールゴミの撤去、掘り出し作業、石集め

12月26日 石の運搬、間伐枝等を活用した杭の作成、木材搬入など

今回の取組において、参加者は当初の想定の半数以下となってしまいました。しかしながら、少人数だからこそ伝わる、じっくりとした活動を行うことができました。

地域の方にご理解をいただくために説明資料を作成したり、説明会をひらいたりする中で、地域とのつながり、賛同くださる方が徐々に増えております。

活動の成果として、ボランティアスタッフの増加や、スタッフの土中環境改善の知識向上が挙げられます。

参加者からは、環境への意識が高まったというご意見も多数いただきました。

普段あまり学校に行かない子も何人か参加してくれました。誰にも評価されたり比べられない活動を通して気持ちを切り替える時間も取れたようです。また、幼児らも、活動をしながら山(自然)への敬意をおぼえたり、普段扱うことのない道具への造詣を高めたりすることで、自然とふれあうきっかけになったことを喜んでいました。

今後も里山×子どもの活動を地道に行いながら、豊かで多様性にあふれた緑の育まれる森づくりを続けてまいります。ご理解いただきました地元の皆様、ご協力くださった講師の皆様にご心より感謝申し上げます。

この活動が継続して実施できるために、緑の羽根募金にも是非ご協力ください。



Special Thanks

環境改善指導



のりまつ造園
乗松正博さん



しがら女子
大庭朗子さん

サバイバル・安全指導



アンフィニッシュドクラブ
西岡輝生さん



アンフィニッシュドクラブ
重田弘美さん

環境改善ボランティア



藤井太一さん

撮影ボランティア



城地洋平さん

猪名川町役場の皆様
猪名川町仁頂寺自治会の皆様
大島小学校区まちづくり協議会様
道の駅いながわ様
ベーカリーカフェ コンネ様

その他関係いただいた皆様



【発行】

2025年2月4日
一般社団法人ピカソプロジェクト
大阪府大阪市西区西本町1丁目13-38西本町新興産ビル103号
contact@picasso-project.jp
(緑と水の森林ファンド助成事業)
奥村・井上